

## (12) 神経芽細胞腫のマススクリーニングでVMA 陽性または疑陽性児に対する精密検査

西 平 浩 一

(神奈川県立こども医療センター)

本症の一次マススクリーニングは尿中のVMAとspot法またはdip法によって陽性か陰性かを判定している。

神奈川県の場合、一次検査はdip法により行い、二次検査は高速液体クロマトグラフィーによってVMAの他に、HVA、VLAの定量も行っている。横浜市の場合は二次検査は薄層クロマトグラフィーで行っている。これらの検査で基準値以上を示した場合に精密検査のため、診療機関に来院することになる。しかし、基準値超過の程度はさまざまであるので、初回来院時から確定診断に必要なすべての検査を実施することは対象児に対する侵襲その他の面で問題がある。そこで以下のように精密検査の手順を整理してみた。

### 理学所見で特に注意すべき事項

- (1) 顔貌（眼瞼周囲の溢血斑など）、眼球運動（Opsoclonus）
- (2) リンパ節腫張（特に頸部、鎖骨上窩）
- (3) 腹部腫瘤、腹部膨満
- (4) 肝腫大の有無
- (5) 下肢の運動（麻痺の有無）
- (6) 血圧測定

### 初回来院時、外来での精密検査項目

- (1) 採尿してVMA、HVA、VLAの定量の再検査
- (2) 腹部超音波検査
- (3) 胸部単純X線撮影（正面、側面2方向）  
単純X線で疑わしい陰影があれば断層撮影を行う。

### 入院時精密検査

初回来院時、理学所見、検査所見で腫瘤の存在が明らかであれば、直ちに入院して以下に述べる検査を行う。

腫瘤が明らかでない場合は尿VMA、HVA、VLAの定量の結果をみて対処する。すなわち(A) VMA、HVA等が明らかに異常高値を示した場合は入院の上、精密検査を行う。(B) 正常値

またはボーダーライン値を示した場合は、1カ月後尿VMA, HVAを再検する。

### 精 密 検 査 項 目

- (1) 静脈性腎盂撮影
- (2) コンピューター断層撮影 (CT)
- (3) 骨シンチグラフィ
- (4) 骨髄穿刺 (骨髄像, 単クローン抗体による検査)
- (5) 血管撮影
- (6) Neuron specific enolase, フェリチン, Vasoactive intestinal peptide の測定



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



本症の一次マススクリーニングは尿中のVMAとspot法またはdip法によって陽性が陰性を判定している。

神奈川県の場合、一次検査はdip法により行い、二次検査は高速液体クロマトグラフィーによってVMAの他に、HVA、VLAの定量も行っている。横浜市の場合は二次検査は薄層クロマトグラフィーで行っている。これらの検査で基準値以上を示した場合に精密検査のため、診療機関に来院することになる。しかし、基準値超過の程度はさまざまであるので、初回来院時から確定診断に必要なすべての検査を実施することは対象児に対する侵襲その他の面で問題がある。そこで以下のように精密検査の手順を整理してみた。